



2004

No. 1

The Natural Science Publishers' Association of Japan

# 自然科学書協会会報

発行人・志村 幸雄

編集・広報委員会

発行・2004年1月15日

社団法人 自然科学書協会

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-101 文化産業信用組合内 TEL03-3292-8281

URL : //www.nspa.or.jp

## 専門書出版社の目指すべき道

— 新年のご挨拶に代えて —

理事長 志村 幸雄

明けましておめでとうございます。会員各位におかれては、本年もまた協会活動に格別のご理解、ご支援を賜りたく心よりお願い申し上げます。

さて、新年を迎えた新聞は「本の販売7年連続減」といった見出しで、昨年の出版業界の不振ぶりを伝えています。金額的に90年代初めの水準に限りなく近づいているのですから、衰退産業ないし構造不況業種といわれても仕方ありません。しかし、同じ出版界でも、米、英、仏などの欧米諸国では低率とはいえ依然成長路線をたどっていますし、アジア地域でも中国では急成長を遂げております。短兵急に悲観主義に陥る愚は避けたいものです。

専門書が売れない、という声もよく耳にします。しかし、同じ専門書の仲間でも確実に売上を伸ばしている分野があることも事実です。当協会の年末集会では、さる取次のトップから、「自然科学書系の書籍が主力店を中心に手堅く売れ足を伸ばしている」という、心強い話を聞きました。いい本、必要な本を作り、売り方を工夫すれば必ず売れるというのは、古今東西の不変の真理なのでしょう。

重要なのは、われわれ専門書業界が時代の変化の予兆を敏感に読み取り、それを好機として生かすか否かということです。正月早々の医書同業会新年例会では、文化勲章受章者で日本医学会会長の森巨先生が「最近の医学部のカリキュラムは一昔前までの紋切り型のものとは様変わりしており、教科書作りもそ



の変化に即応していかなければならない」と話されていました。理工系学部でもそれは同じで、最近では人文、社会科学との境界領域にある科目や、異種工学間の融合系科目が急増しています。教科書販売の不振を嘆くよりも、ニーズの変化を好機にしていく自助努力が問われているようです。

もう一つ問題提起しますと、専門書とは専門書出版社が出版したからそう呼ぶのではなく、一般書の対語として専門的な内容を盛った本だから、そう呼ばれているのです。この種のものには、上は学術書、解説書、教科書志向のものから下は啓蒙書志向のものに至るまで様々な態様のものがありますが、最近の傾向として、このうち川下に近いものが一般書の出版社から出版されるケースが増えていることです。中でも、「複雑系」「暗号解読」「有機ELのすべて」といった本は専門性が高いにもかかわらず、ブームに乗って結構話題になり、売れ行きも好調だったようです。また、大佛次郎賞をはじめ最近の出版賞を独り占めした「磁力と重力の発見」は、磁石の「遠隔力」という概念から近代物理学の誕生に迫った大書ですが、版元になったのは人文

科学系の出版社でした。私どもはともすれば、狭い視野で日々の出版活動に取り組みがちですが、これらアウトサイダーの戦略から学ぶ取るものが多々あるように思われます。

以上、思いつくままに私見を述べましたが、要は専門書出版社の自覚と矜持を内に秘めながら、新しい時代の息吹を吸収していくことだと考えます。折から当協会は創設以来58年の歴史を刻み、60周年に後2年と迫りました。「継続は力なり」といわれますが、それを下支えするのは先人たちの夢や理念を継承しながら、それに新しい知恵とエネルギーを注入していくことだと念じています。

## 2004年、協会の抱える問題と活動

専務理事 本郷 允彦

昨年、協会が新しい年度を迎えるに当たり、協会の活性化について述べさせて頂きました。本年も継続してこの問題に取り組んでいく所存です。協会の活動方針については、各委員長からも述べられると思いますので、ここでは協会が抱えている諸問題と活動について少し触れてみたいと思います。

新年度より委員長会議（常務理事・各委員長出席）を新設、緊急かつ重要課題について活発な討議がなされ、理事会に報告されています。

中でも大きな課題としては理事会でも報告されている通り、協会の定款変更が挙げられます。現在の定款は1993年に「自然科学書協会概要」の中で記載され配布されたものであります。2年にわたり文科省と折衝をしていますが、先方担当者の交代などのため折衝がはかどらず承認まで至っておりません。協会としても継続して接触を深め、早い段階での改正を行わなければなりません。それと同時に1993年に発行しました『自然科学書協会概要』の改正があります。すでに10年以上経過し内容も変化してきています。会員の皆様には定款の変更が承認され次第、お届けしたいと考えております。

次に複写権センター問題と違法コピーに対する対応が挙げられます。現在複写管理処理団体として、日本複写権センター・学術著作

権処理システム・日本著作出版権管理システムの3団体がありますが、利用者の立場から考えれば一本化が望ましいと考えられます。白抜きRが日本複写権センターで管理処理がされなくなった後、会員社の出版物は上記3団体のいずれか、もしくは自社管理をすることになりました。現状では複写単価の違いの問題などから、これらを一本化するのがきわめて困難な状況です。当協会は専門書の団体として将来の3団体の一本化に向けこの問題に取り組んでいかなければなりません。もちろん、日本書籍出版協会・出版者著作権協議会との連携も必要になります。違法コピー問題については東京国際ブックフェアで2年間取り組んでまいりましたが、今後も何らかの形で継続することが必要と考えます。

次に協会の情報開示の問題です。文科省指導により協会の情報開示が指摘されております。ホームページによる開示については、現在その内容を総務委員会・情報システム委員会などで検討し、固まり次第、逐次ホームページで開示する準備を進めております（自然科学書協会URL <http://www.nspa.or.jp>）。会員各社のご意見をお待ちしています。

また、専門書として特に注意を払わなければならない事柄として、著作権法改正の問題があります。その中でも第35条「学校その他の教育機関における複製」の範囲の拡大は専門書出版社としては大きな問題です。今年はそのガイドラインが決定します。教育機関における複写がどのような形でなされているか、我々は注意深く監視をする必要があるでしょう。加えて第31条「図書館における複製」もあります。また、関連して第32条「引用」については協会として引用の手引き（ガイドライン）を作成し会員社の参考になればと考えております。

その他にも日本複写権センターから入金する複写使用料の配分と活用の問題、東京国際ブックフェアへの出展、消費税総額表示問題、ポイントカード問題、万引き防止活動への協力、公取委における下請法の適用範囲に対する対応など挙げればきりがありません。

この他に協会として本年度立てた事業計画も着実に遂行していかなければなりません。

これには皆様のご支援・ご協力が必要です。本年度当初に述べたように一人でも多くの会員社が出席されることを望んでおります。会員社全体の今後の会合予定は、1月15日(木)12:00～新年会員集会、5月20日(木)16:00～第35期第2回総会を予定しております。多数の会員社の出席を、お願いいたします。

#### 《寄稿》

### 取次2社からの新年のメッセージ

#### 〈新たな飛躍の年に〉

新年明けましておめでとうございます。

自然科学書協会の皆様には、旧年中は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼を申し上げます。本年も相変わりますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、我が国経済の状況を見ますと、製造業を中心とした輸出分野は堅調に推移しておりますものの、個人需要はなお厳しい冷え込みを続けており、景気の本格回復にはまだ時間がかかるように存じます。

中長期的に我が国の経済成長を支えるのは、先端技術を活用した「モノづくり」の力ですが、その基盤をなし、前提となりますのが、自然科学の分野における教育と研究の充実でありますことは言を俟ちません。「基礎」の厚みがあってこそその「応用」であり、自然科学書出版は、技術立国ニッポンの礎たる重要な使命を帯びておられます。

もとより、科学技術の分野は日進月歩であります。最新の「知」をどのような形と内容で読者に提供し、ニーズに添えていくか、特に販売面では一層の創意工夫が必要だと考えております。

寺田寅彦は、古代における石器から銅器への変遷を考察し、その著書において「新しい素材に、より多く適切な形式を発見する」とこと、「古い形式に新しい素材を取り入れて、その形式の長所を、より多く発揮させる」とことは、共に容易ならざる難事であるとしてお



ります。デジタル通信や放送が普及し、ネットによる情報交換が一般化している現在、出版業界もまた同様の難しさに直面しておりますが、見方を変えれば、新たな飛躍のときを迎えている、ともいえるのではないのでしょうか？

社会における出版の意義と役割を念頭に、同時に時代の変化を自らの中に取り入れ、躊躇なく改革に臨んでまいりますことで、必ずや道は拓かれる、そのように信じて、新年もまた出版社の皆様と共に力を尽くしてまいりたいと存じます。

自然科学書協会様のますますのご発展を祈念し、会員出版社皆様の更なるご繁栄を心よりお祈り申し上げます。

(株)トーハン 代表取締役社長 小林辰三郎

#### 〈変化に対応した意識改革が急務〉

自然科学書協会の会員の皆様におかれましては、健やかに新春を迎えられたことと、お慶び申し上げます。

貴協会は戦後間もない昭和21年に設立され、爾来、今日まで専門書を通じて日本の科学技術の進展を根底から支え続けてこられました。改めまして、長年にわたる付加価値の高い出版活動に対し、心より敬意を表したいと思います。

日販としましても、書店様ならびに読者の強い要望にいち早く応えるべく、1989年、王子ハイテクセンター内に専門書センター、医書センターを設け、迅速な流通体制を整えた経緯がございます。

さて、出版物販売額は97年をピークにシュリンク傾向が依然として続いておりますが、出版界も他産業と同様、時代が変わったことを認識し、その変化に対応していくための意識革命が急務であることは明らかであります。

今こそ、出版界が勇気と決断をもって取り組まなければならない重要課題は、従来の商習慣や流通制度にとらわれることなく、顧客創造を目指したインフラの整備とマーケットデータに基づいた業界三者の責任ある商売、



つまり業界 SCM (サプライ・チェーン・マネジメント) の確立であります。

一方、今年は消費税の表示方法の変更や、雑誌バーコードの新体系の導入など、出版流通のターニングポイントとなる事項が控えております。また、書籍・雑誌の貸与権や社会問題になっている万引き防止対策に向けた取り組みなど、業界構造自体が大きく変貌しようとしています。

こうしてかつてない変化の潮流の中で、出版界の将来を握る書店の活性化対策についても、原点を忘れることなく、あるべき姿を追究する年にしたいと決意を新たにしております。

最後になりましたが、伝統と実績を誇る貴協会の更なるご発展を心よりお祈り申し上げ年頭の挨拶に代えさせていただきます。

(日本出版販売(株) 代表取締役社長 鶴田 尚正)

## 創立40周年を迎えた日本大学出版部協会

東京大学出版会 渡邊 勲

社団法人出版文化国際交流会の「50年史」を繰ると2001年10月の記事として、フランクフルトBFにおいて「初企画として、出版3団体の協力を得て共同展示コーナーを設置し、(社)出版梓会(72社、199点)、(社)自然科学書協会(44社、195点)、大学出版部協会(20社、160点)、総計554点の学術図書を展示。……」とある。自然科学書協会・出版梓会と共に大学出版部協会は日本を代表する学術書出版組織へと成長してきたのである。

大学出版部協会は実は、02年12月臨時総会で会則運用細則の改定を行い、03年4月総会で大正大学出版会を新会員に加えて27大学出版部を擁する組織となり、協会名にあえて「日本」を加え日本大学出版部協会と名乗ることになったが、そこには、協会創立40年という記念すべき大きな節目の年に当り、改めて「日本における大学出版部の連合組織である」ことの責任を自覚し、併せて「世界の大学出版部運動の一翼を担う」ことの意味を問い直したい、との思いが込められていた。

日本大学出版部協会の活動は、執行部に当る幹事会(幹事18名、監事3名)のもとに幹事メンバーによる事務局を置き、営業部会・

編集部会・国際部会・電子部会を全国27大学出版部から各部会委員を募って組織し、事務局・4部会によって展開している。その活動内容は、自然科学書協会や出版梓会にも決して負けない豊かさをもっていると自負している。が、27大学出版部のうち17が東京周辺に位置しているという状況が、全国展開型の活動に一定の制約となってきたことも否定できない。そこで協会は、この欠点を補い、協会発展の将来像を見据えながら、6大学出版部からなる関西支部を発足させることにした。

日本大学出版部協会は、「40年の歩み」を経て確かに成長してきたといえる。しかし、協会を構成する一つ一つの出版部は、厳しい出版環境と大学の激変の中であって呻吟している。大学出版部とその連合体である協会とは、いま正に存立をかけた正念場に置かれてもいる。03年12月5日、協会創立40周年記念「感謝の会」を開催したのは、この状況を耐え忍んででも協会組織を守り続けたいとの決意の表明であった。最後になったが、「感謝の会」には、自然科学書協会志村幸雄理事長のご来駕を賜ったことをご報告し、日本大学出版部協会幹事長として、心より御礼を申し上げる。

## フランクフルトBFその周辺

丸善(株) 松嶋 徹

毎年フランクフルトブックフェアに参加して、フェアの実態を報告してまいりましたが、書く種がなくなると申し上げましょうか、はたまた私の感性が鈍ってしまったのか、フェアについては格段書き足すこともありませんので、今回は趣向を変えて、フランクフルトの書店についてご報告させていただきます。

ドイツにはHugendubelというドイツ最大のナショナルチェーン店があります。ドイツ全土で大型書店30店舗、50、60坪の小型書店260店舗を運営しています。その大型店の一つがフランクフルトの中心街にあります。店内に入ってまず驚くことは、この店には下りのエスカレーターがないということです。客は上りのエスカレーターに乗っていったん上階に上がったら、スロープを伝って下の階